

## 投資事業評価調書（継続：再々評価）

部課室名	河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 佐々木良作 (主幹兼治水係長 小西克彦)	内線	4408 (4437)
事業種目	河川	事業採択年度	H 2	現 計 画	再評価時点
事業名	広域一般河川改修事業 (一) 円山川水系大浜川	着工年度	H 2	総事業費	6.5億円
		再評価年度	H11	内用地補償費	0.7億円
事業区間	豊岡市森津～岩熊			完成予定年度	H 1 7
所在地	豊岡市			進 捗 率 (内用補進捗率)	88% (93%)
				残事業費	0.8億円
事業の目的			事業内容		
<p>当該河川は、昭和51年9月台風17号、平成2年9月台風19号による豪雨で床下浸水、田畑の冠水や地域の基幹道路である国道178号が約1kmにわたり冠水し、通行不能となるなど甚大な被害が発生している。</p> <p>このような被害を防止するため、計画流量160m<sup>3</sup>/s、治水安全度1/10の整備を目標として河川整備を進め、地域住民が安全で安心して生活できる環境を確保する。</p>			<p>計画流量 Q=160m<sup>3</sup>/s (治水安全度 1/10 : 豊岡市新堂) 実施内容 L=1,600m 築堤、掘削、護岸、樋門3基 等</p> <p>[負担割合 国: 4/10 , 県: 6/10]</p>		
社会経済情勢の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和51年、平成2年の台風により、通行不能となった国道178号は、豊岡市と竹野町を結ぶ重要な路線であり、その通行量は平成2年に5898台(12h)だったものが、平成11年には8331台と1.4倍となっている。</li> </ul>				
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画区間下流端である亀ヶ崎橋から奈佐川合流点までは、昭和60～61年度に直轄事業にて施工済みである。</li> <li>平成2年度から改修を開始し、下流（亀ヶ崎橋）から順次整備を進めてきた。</li> <li>再評価時点（平成11年度）から平成16年度までに、家屋の浸水あるいは地域の主要幹線である国道178号の冠水を解消する当該河川左岸部の整備が完了し、事業進捗率は平成16年度末で88%に達している。</li> <li>平成17年度中に岩新橋上流部の右岸堤防の築堤及び取水樋門1基等を整備し、事業を完了させる。</li> </ul>				
評価視点	評価結果の説明				
(1)必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>円山川下流圏域の河川整備計画を平成16年度中に策定する予定となっている。</li> <li>過年度施工により円山川からの背水による溢水の危険性はなくなったが、残区間である岩新橋上流部は、右岸の堤防が低く計画流量160m<sup>3</sup>/sに対して50%程度の流下能力であり、再度被害を防止するために残区間の整備が必要である。</li> </ul>				
(2)有効性・効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>費用便益比 B / C = 3 . 5</li> <li>残区間の整備により、約8haの耕地の冠水が防げるとともに、右岸施工済み堤防約300mの効果が発現できる。</li> <li>下流から順次整備を進めており、残事業が、築堤約200mと取水樋門のみであるため、事業を継続し、平成17年度に完成させることにより工区全体での事業効果が発現する。</li> <li>必要な事業用地の93%を既に確保している。</li> </ul>				
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> <li>かごマットによる多自然型護岸で整備を行うとともに水辺に親しめるよう緩傾斜護岸で整備を行っている。</li> </ul>				
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> <li>当該事業区間は、水防法に基づく重要水防区域に指定されている。</li> <li>地元からも早期事業完了の要望がある。</li> </ul>				
再々評価の結果	事業継続	左の理由	上記の理由により、事業継続が妥当である。		